

日本基督教団

西条栄光教会牧師館

文化財的保存改修2017-2018

1951 浦辺鎮太郎設計



牧師館(曳家時)



改修前



基礎工事



構造材交換



壁下地・竹小舞

牧師館について

西条栄光教会の建築群は江戸時代初期に築かれた西条藩陣屋跡のお堀の内側に建っています。白い礼拝堂が北東のお堀端に、南側に牧師館、西側に幼稚園があり、それぞれが切妻の瓦屋根によって統一され、三棟が渡り廊下で繋がって園庭を囲むように群を成してお堀とともに調和して佇んでいます。牧師館は、礼拝堂に合わせるように高さを抑えた日本瓦の切妻屋根と1階を杉板、2階を漆喰壁

の真壁とした民藝風の意匠は、お堀の情緒にあった景観を作り出しています。また大屋根としたことで、床の段差や吹抜などが立体的になり豊かな内部空間となっています。建築当時は、信者の集会と牧師の生活といった公私の用途を併せ持ち、回遊性がありながら階段や便所を2つ設けることで動線が交わらないようにゆるやかに分節された巧みな計画となっています。

牧師館 改修マップ

ここに掲載している写真は改修前や工事中のものです。
実際の場所と比べながらご覧ください。
()内は当時の室名です。



【客間-1】
当時の姿に近い形に改修することを目指して修繕天井・床・階段・手すり・照明は、当時のまま



【庭への戸】
アルミサッシを木製に

【キッチン】
機能的に改造。隠れていた当時の天井と腰板を再使用



【戸】
2枚新設し、開放的に。柱は庭側に移設、扉は洗面室で再使用



【キッチン飾り棚】
解体した壁の中から電気ボックスが見つかり、飾り棚として再利用

【浴室・洗面室】
快適性を優先し、アルミサッシ、ユニットバスに改修



【階段下の収納】
洗面室と繋げています

【玄関】
扉はそのまま使用（おそらく2代目）土間は黒モルタルに復元



【渡り廊下】
屋根は改修し、柱は当時の色を復元

改修：劣化した建築物の性能、機能を初期の水準以上に改善すること
改装：建物の外装、内装などの仕上げ部分を模様替えすること
改造：既存の建築物などの一部を変更すること
交換：部材・部品や機器などを取り換えること
更新：劣化した部材・部品や機器などを新しい物に取り替えること
修繕：劣化した部材、部品あるいは機器などの性能または機能を現状あるいは実用上支障のない状態で回復させること
復元：写真や文献などが残っており現存していないものを再現すること
復原：部材等が残っており当初の姿に戻すこと



模型を作成し、軸組を検討

©北村徹



【通柱】
腐っていた部分を更新



【外壁】
愛媛県産杉材を利用して新しく交換

今回の改修では、床の不陸が激しく基礎の崩壊も見えていることから「保存再生」「耐震改修」「生活空間の快適性の改修」を行うことになりました。外部は望みできる範囲を極力保存再使用し、内部は保存と快適性の優先順位を検討しながら工事を進めました。保存と改修部分を明確に分けるのではなく、修繕や交換・更新など保全をすることで、新旧の空間が階調的に繋がっていくように計画しています。

牧師館は建物の状態や当時の写真等から、生活の中で幾度も改修を繰り返した形跡が見られました。そのため、今回の現代的な快適性への改修も歴史の繋がりと捉えようと考えています。また、牧師館は生活空間と保存展示空間という、複合用途的な使い方を狙っています。これは、1951年の建築当初も牧師の生活空間（＝プライベート）と教会員の集会室（＝パブリック）という使われ方をしていたことがモチーフとなっています。



【天井】
当時より雰囲気が変わってしまったものを改装
【床の間の下がり壁】
壁の裏は当時のまま
【窓】
アルミサッシを障子風ガラスの木製窓に



【外壁】
新しくするために全て撤去し、土は再使用

【梁】全体で30本交換

【柱】全体で9本交換

【基礎】
曳家を行い解体し、ベタ基礎を新設
解体時に木杭が25本見つかった



【屋根瓦】
使えるものと使えないものを選別し、お堀側の屋根に再使用

【階段の壁】
上下の柱はそのまま、梁は交換



【室-2】
2部屋を1部屋にして、使いやすく改造

【天井】
新しくして、古い天井は天井下に保存

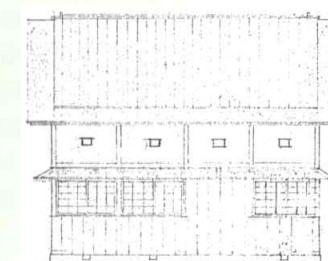
【窓】
アルミサッシを障子風ガラスの木製窓に



【戸】
建具は古い写真から復元

設計図と完成写真を 見比べてみると…

牧師館の2階東側は設計原図を見ると4つの小窓が設置予定だったことが伺えますが、実際は2つしかありません。これは内部2ヶ所が収納で、窓が取り付けられないため。設計図を訂正するはずが消し忘れていると考えられ、浦辺氏の思考の跡を感じられる資料です。



東側立面図
(設計原図コピー)



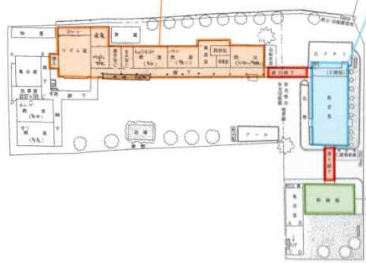
完成した牧師館
(1951-54年西条栄光教会アルバム No.1)

西条栄光教会建築群 配置図

幼稚園(西)



©北村徹



2018.10

礼拝堂(北東)



©北村徹

牧師館(南)



©北村徹



©浦辺設計

建築家 浦辺 鎮太郎(1909-1991)

岡山県出身。京都帝国大学建築学科時にフランクロイドライトの高弟である遠藤新に師事し、影響を受ける。倉敷レイオンに入社後は営繕部門に勤務し、大原総一郎の構想するまちづくりを支え、倉敷市に多くの作品を残した。(作品:倉敷国際ホテル、西条郷土博物館、愛媛民藝館、倉敷アイピースクエア、大仏次郎記念館)

西条栄光教会の歴史

西条栄光教会は昭和23年9月 倉敷レイオン西条工場寄宿舍の一室で10名に足りない青年男女の聖書研究会から始まり、昭和24年8月15日西条市東町273番地に設立される。昭和25年3月26日に開かれた教会役員会において教会建設の計画を決議した。建設敷地は南海震災により地盤が沈下し約2mの埋め立てを必要とし4ヶ月の工事に於いて完了した。教会建設の資金については、140名の募金、教会員のか月分の給料の献金やバザーを行った。また当時の倉敷レイオン大原総一郎社長の多額な寄付によって建設が実現するに至った。昭和26年4月4日に本社営繕部長の浦辺鎮太郎の設計において教会の建設が始まり、幼稚園は最も現代的なスタイルとし教会は近代色とクラシックを加味し牧師館は民藝の趣味を加えるなど凡ゆる創意と工夫を拂われ工事が完了し、同年11月1日の献堂式に至った。(1951年11月1日 西条栄光教会建設経過より) 新築当時の経緯については、基本構想の段階で当時倉敷民藝館館長外村吉之介に意見を仰いだともある。

継続的文化財保存改修として

西条栄光教会建築群は2015年7月に保存再生調査を開始しました。調査の結果、最も危険な状態が判明した牧師館の改修計画が2016年10月始動。基本設計をもとに施工業者と協議をするも予算に届かず、分離発注方式を採用することになりました。その際、保存改修ワーキンググループを立ち上げ、一部見切り発車的に起工式を2017年5月に実施しました。工事中も調査・設計・見積を同時進行しつつ、予算不足解消のためのDIY等も行いながら約1年半の工事を終えました。

西条栄光教会は設計原図のコピー・写真アルバム・建設経過など資料が多数残っており、当時の姿を知ることができました。計画にあたっては、文化財として当時の建築へ戻すのではなく、時間を経て改変されてきた部分を受け入れ今後も使い続けることをテーマとしました。まちづくりを意識した浦辺氏をはじめ、歴代の教会員の方々の想いを繋いできたこの建築に対するオマージュとして引き継いでいることを願っています。

2018.10 改修設計:長井信彦

(牧師館保存改修ワーキンググループ:長井信彦、高木伸幸、政石信行)